

## 数字で見る平成19年度

開館以来、毎年来館者数を増やし、一年間に**795,497**人が未来館を訪れた。

合わせて**143,295**人が未来館オリジナルの企画展(サイエンスニュース! アジア展、地下展)を楽しんだ。

**17**ヵ国、**121**人が未来館で開催した科学館の国際会議に参加した。

実験工場の教室・イベントを**291**回ひらき、のべ**3,538**人が実験に参加した。

計**240,130**人が未来館のアウトリーチ活動に参加した。

のべ**11,044**人の生徒が、未来館と教育機関などが連携したプログラムで科学を学んだ。

**6**回の科学コミュニケーター研修プログラムに未来館外から**35**人が参加し、一週間コースを修了した。

約**200**人の研究者・技術者が未来館の企画開発に密接に関わった。

のべ**10,398**名のボランティアが**68,003**時間の活動で未来館を支えた。

**30,972**人の友の会会員が未来館を通して科学を楽しんでいる。

ホームページへは年間総数で**11,768,929**件のアクセスがあった。

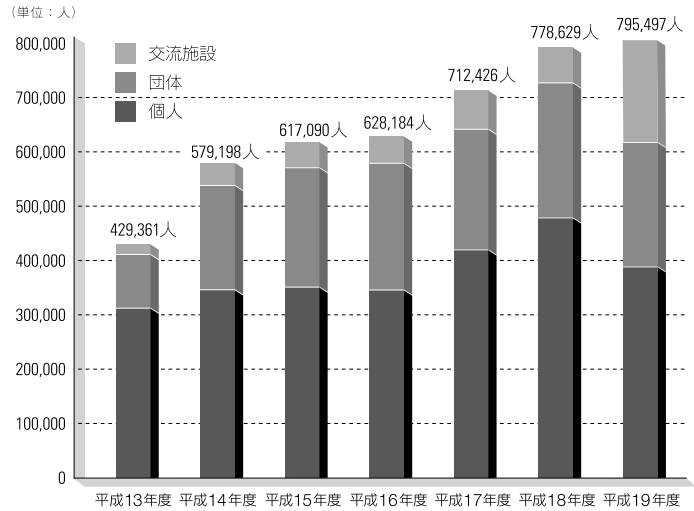
未来館がマスコミに取り上げられた数は**2,439**件ののぼり、

これを広告費に換算すると**31億**円以上に相当する。

# 来館者データ

## 開館時から7年間の来館者数

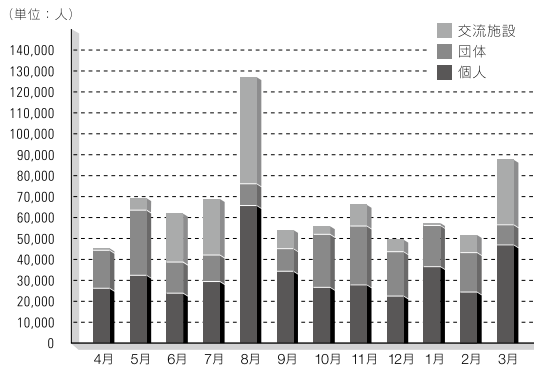
開館以来毎年増加している来館者数を、今年度も更新した。増要因としては、10月から2月に開催した「地下展」が非常に好調であったこと、夏に開催した「コピー機フシギ展」等、交流施設への来館者が増えたことが挙げられる。交流施設は、科学技術の振興に関する交流の場として施設を貸し出しているもので、多様な展示・イベント等により交流の輪が広がったといえる。



## 平成19年度

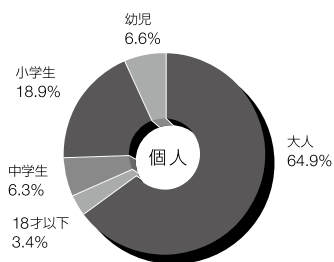
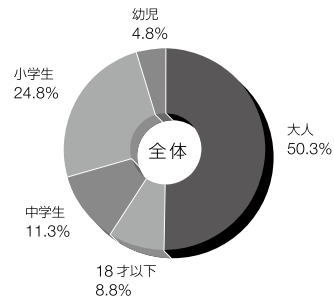
### 来館者数の内訳(月別統計)

交流施設で開催されていた大規模なイベントなどにより、8月には月間来館者が10万人を超え、歴代1位の数字を記録。また、3月としては過去最高の8万人を超える来館者は、交流施設での複数の大規模イベントに加え、特別企画展「エイリアン展」への関心の高さによるものである。



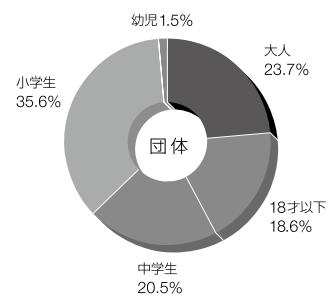
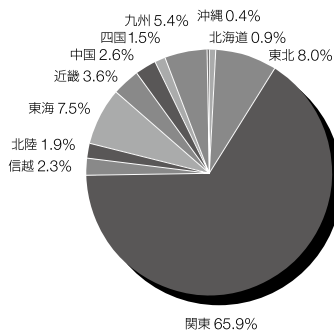
### 年代別内訳

全体では約半数が大人で、続いて小学生・中学生・18歳以下(高校生含む)の順になる。団体では、やはり修学旅行などの学校団体が多くなるため、高校生以下の年代層が大幅に増えるが、個人では逆に高校生・中学生の来館が伸び悩んでいることが読み取れる。



### 団体来館者における地域別統計

全体の6割以上が関東甲信越からの団体である。関東地区以外からは東北、東海、近畿地域からは中学生(ただし静岡県は小学生)、九州地区からは高校生の修学旅行等での来館が主になっている。



## 広報活動実績

### メディア対応件数

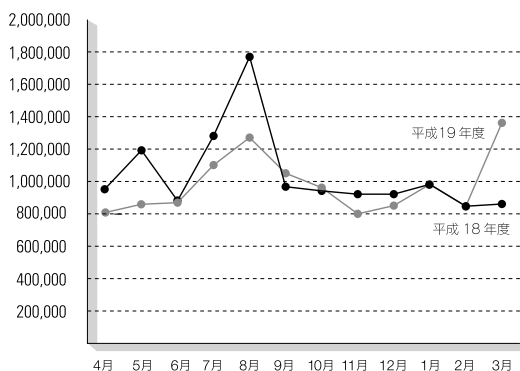
年月	媒体種類						合計
	テレビ	ラジオ	雑誌	新聞	WEB	他	
H19/4	9	0	44	63	38	14	168
H19/5	14	2	46	54	13	24	153
H19/6	3	2	35	70	11	23	144
H19/7	20	1	51	155	17	8	252
H19/8	29	3	48	128	19	21	248
H19/9	16	6	41	76	35	13	187
H19/10	25	2	48	127	14	12	228
H19/11	15	1	34	79	14	25	168
H19/12	10	3	41	76	14	12	156
H20/1	12	1	26	134	12	15	200
H20/2	11	1	42	90	27	22	193
H20/3	21	8	52	194	30	37	342
合計	185	30	508	1246	244	226	2439

### 広告換算費

年月	媒体種類			合計
	テレビ	新聞	雑誌	
H19/4	¥ 2,896,000	¥ 36,807,061	¥ 7,992,441	¥ 47,695,502
H19/5	¥ 302,761,746	¥ 42,539,933	¥ 5,106,485	¥ 350,408,164
H19/6	¥ 181,879,331	¥ 68,637,284	¥ 13,604,737	¥ 264,121,352
H19/7	¥ 94,091,999	¥ 97,670,427	¥ 18,608,538	¥ 210,370,964
H19/8	¥ 217,745,326	¥ 126,836,581	¥ 10,761,236	¥ 355,343,143
H19/9	¥ 59,399,999	¥ 118,677,890	¥ 16,868,099	¥ 194,945,988
H19/10	¥ 53,868,659	¥ 86,247,676	¥ 21,591,856	¥ 161,708,191
H19/11	¥ 74,557,679	¥ 79,493,498	¥ 11,681,690	¥ 165,732,867
H19/12	¥ 24,827,865	¥ 48,471,262	¥ 10,509,816	¥ 83,808,943
H20/1	¥ 506,505,997	¥ 137,230,110	¥ 4,228,260	¥ 647,964,367
H20/2	¥ 101,068,664	¥ 84,141,983	¥ 11,072,163	¥ 196,282,810
H20/3	¥ 316,460,832	¥ 129,352,519	¥ 36,978,028	¥ 482,791,379
合計	¥ 1,936,064,097	¥ 1,056,106,224	¥ 169,003,349	¥ 3,161,173,670

## 未来館 Web サイト アクセス数集計

### ページアクセス数と前年度比較



平成19年度	アクセス数	平成18年度	アクセス数	前年度比較
H19/4	812,129	H18/4	950,069	-137,940
H19/5	862,110	H18/5	1,190,741	-328,631
H19/6	870,387	H18/6	882,806	-12,419
H19/7	1,095,601	H18/7	1,292,237	-196,636
H19/8	1,272,587	H18/8	1,770,506	-497,919
H19/9	1,046,795	H18/9	973,714	73,081
H19/10	985,556	H18/10	994,087	-28,531
H19/11	806,519	H18/11	919,815	-113,296
H19/12	850,867	H18/12	921,862	-70,995
H20/1	985,120	H19/1	979,035	6,085
H20/2	837,910	H19/2	844,688	-6,778
H20/3	1,363,348	H19/3	863,418	499,930
合計	11,768,929	合計	10,6632,978	442,221

# 友の会活動実績

平成 19年度友の会会員数  
(平成20年3月31日現在)

個人会員	2,613人 (うち「プラス会員 個人」79人)
家族会員	家族会員 28,359人/6,876組 (うち「プラス会員 家族」694人/185組)
合計	30,972人 (うち「プラス会員」773人)

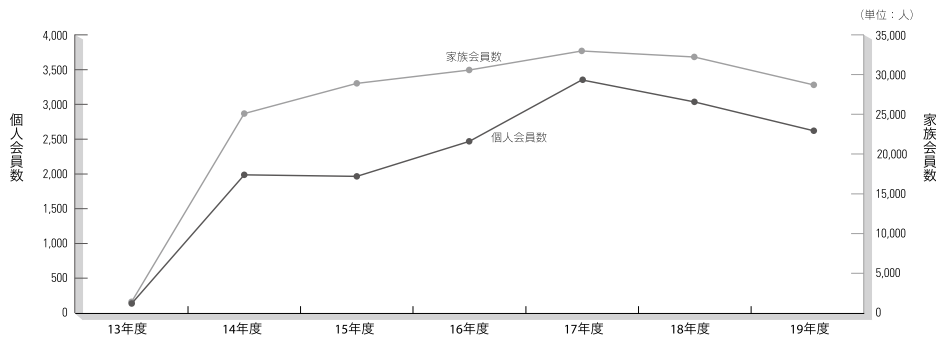
「プラス会員」とは、未来館を積極的に応援し、未来館の活動を一緒に作っていく会員の集まりとして、平成19年度に創設した会員制度

## 会員数の推移

(単位：人、もしくは組)

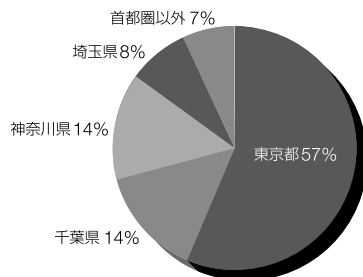
	平成19年										平成20年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
個人会員数	2,957	2,901	2,769	2,700	2,751	2,675	2,663	2,630	2,609	2,683	2,669	2,613	
家族会員数	32,260	31,489	29,514	29,345	30,304	28,206	27,728	27,444	26,834	28,010	28,011	28,359	
(家族数)	7,776	7,591	7,117	7,092	7,292	6,814	6,719	6,653	6,507	6,786	6,795	6,876	
会員総数	35,217	34,390	32,283	32,045	33,829	31,656	30,391	30,074	29,443	30,693	30,680	30,972	

## 個人・家族会員数の推移

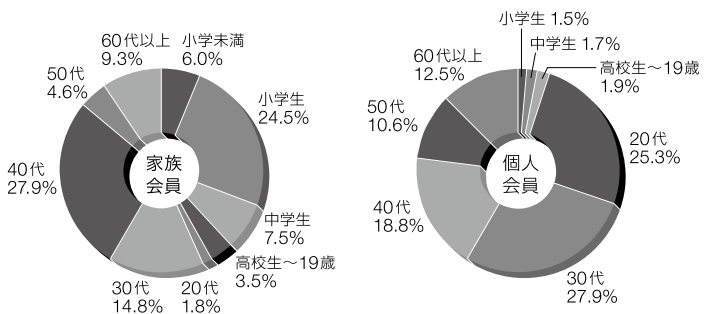


## 会員の属性

### 都道府県別会員数



### 年代別会員数



## 組織・予算

総館長

石田寛人(平成20年3月まで)  
沖村憲樹(平成20年4月より)

館長

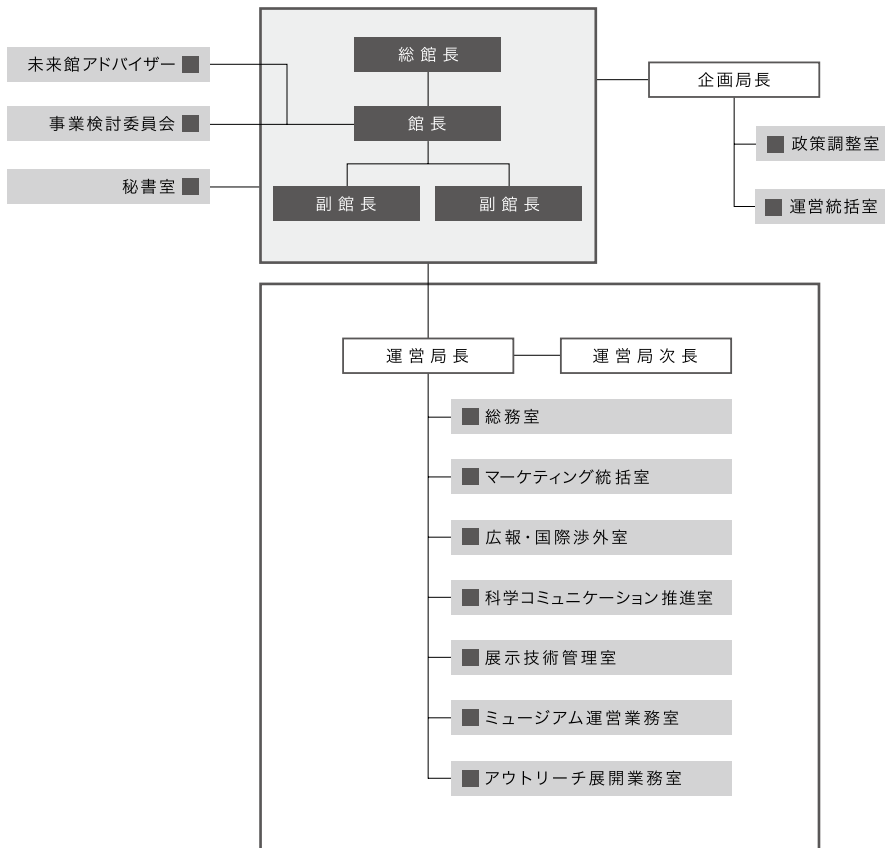
毛利 衛

副館長

竹内満晴(平成19年6月まで)  
中島義和

## 組織体制

(独)科学技術振興機構(JST)は、平成18年度に競争入札を行い、平成19年度より館長などのトップマネジメント業務を除くほぼすべての業務を民間(注1)に委託した。また運営に関しては総合監修委員会(注2)の監修を受けている。



(注1)

運営局業務：(財)科学技術広報財団、清掃・外構植栽管理：東京ビジネスサービス株式会社、防災センター(警備・ビル管理)：共立管財株式会社

(注2)

### 総合監修委員会

#### 委員長

安西祐一郎(慶應義塾 塾長)

#### 委員

金澤一郎(日本学術会議 会長)

小宮山宏(東京大学 総長)

榊裕之(豊田工業大学 副学長)

佐々木正峰(独立行政法人国立科学博物館 館長)

高柳雄一(多摩六都科学館 館長)

辻篤子(朝日新聞 論説委員)

豊田皓(株式会社フジテレビジョン 代表取締役社長)

中井昌幸(トヨタ自動車株式会社 常務役員)

中村桂子(JT生命誌研究館 館長)

増田宏一(日本公認会計士協会 会長)

山極隆(玉川大学学術研究所 教授)

平成7年度	<p><b>平成7年11月</b> 科学技術基本法が成立</p>	<p>科学技術創造立国を目指すことを目的とした科学技術基本法が成立した。</p>
平成8年度	<p><b>平成8年7月</b> 科学技術基本計画が策定</p>	<p>同法の成立を受け、科学技術の振興に関する総合的・計画的な施策を推進するための科学技術基本計画が策定された。魅力ある科学館等の整備とそのネットワークの強化、研究開発成果の公開、科学技術に関する社会の関心を高めるための議論の場の設定等が盛り込まれた。</p>
平成10年度	<p><b>平成10年12月</b> 「国際研究交流大学村」の建設が決定</p>	<p>文部省、通商産業省、科学技術庁の3省庁(*1)が合同で、東京臨海副都心地区に「国際研究交流大学村」を建設することが決定。科学技術振興事業団(*2)は、最先端の科学技術の展示、展示方法の開発、研究者の交流等を通じて、科学技術の情報を発信していく施設を整備することとなった。</p> <p>*1：平成13年1月 省庁再編成により文部科学省、経済産業省の2省となる。 *2：平成15年10月 独立行政法人科学技術振興機構となる。以下同じ。</p>
平成11年度	<p><b>平成12年3月</b> 展示計画・活動方針の検討、館の整備が進行。</p>	<p>科学技術振興事業団は、日本科学未来館のあり方等についての審議を行うため、理解増進新規事業推進室、総合監修委員会を設置し、展示計画、活動方針などについて具体的な検討を重ね、それをもとに館の整備が進められた。</p>
平成12年度	<p><b>平成12年9月</b> 正式名称を「日本科学未来館」に決定</p> <p><b>平成13年3月</b> 日本科学未来館の建物が完成</p> <p><b>平成13年3月</b> シンボルマークが決定</p>	<p>施設の基本理念を簡潔に表現しているとして、施設の名称を「日本科学未来館」に決定し、公表した。また、総館長に吉川弘之（東京大学名誉教授）、館長に毛利衛（宇宙飛行士）の就任を決定した。</p> <p>「地球と衛星軌道」「細胞分裂」「地球上の様々なネットワーク（人と人、情報など）」「電子の動き」などをイメージさせ、日本科学未来館の展示の4テーマ「地球環境とフロンティア」「生命の科学と人間」「技術革新と未来」「情報科学技術と社会」を表している。（シンボル・マーク・デザイン：廣村正彰）</p>
平成13年度	<p><b>平成13年6月</b> 展示物第1期工事完成</p> <p><b>平成13年7月9日</b> 日本科学未来館が開館</p> <p><b>平成14年3月</b> 展示物拡充工事完成</p>	<p>展示の分野ごとに、専門的見地から内容を監修してもらうため、第一線の研究者を科学技術アドバイザーに委嘱し、推進していた展示物等の整備が完了した。</p> <p>二足歩行ロボットASIMOの展示・実演、「生命の科学と人間」コーナーの改装、防災科学技術研究所のHi-Netからのリアルタイム地震データを利用した展示、スーパーカミオカンデの1/10スケールモデル等の展示物拡充が完了した。</p>
平成14年度	<p><b>平成14年10月</b> 展示物拡充工事完成</p>	<p>「地球生命と宇宙、40億年の挑戦」（国際宇宙ステーション）の展示が完成した。</p>
平成15年度	<p><b>平成16年3月</b> プラネタリウム「MEGASTAR-II cosmos」の導入</p> <p><b>平成15年度</b> 「時間旅行」展巡回</p>	<p>オリジナルコンテンツ「新しい眺め」を開発し、ドームシアターガイアのコンテンツとして常設化した。</p> <p>初の海外巡回。内容をバイリンガル化し、海外（中国、メキシコ）で開催した。</p>
平成16年度	<p><b>平成16年7月</b> 日本科学未来館3周年記念式典・名誉館員顕彰制度</p> <p><b>平成17年1月</b> ロゴマークの変更</p>	<p>日本科学未来館の開館3周年を記念して「3周年記念式典」を開催した。また、科学技術に対して顕著な貢献をし、かつ日本科学未来館の事業に貢献した研究者を顕彰する「名誉館員顕彰制度」を設立し、ノーベル賞受賞者白川氏、小柴氏らが出席する顕彰式を行った。</p> <p>日本科学未来館のロゴマークを「MeSci」から「Miraikan」に変更した。</p>
平成17年度	<p><b>平成17年4月</b> ブランドプロジェクト開始</p> <p><b>平成18年3月</b> スローガンの制定</p>	<p>未来館独自の価値や将来にわたる約束を明文化し、未来館ブランドを構築するためのプロジェクトを開始した。</p> <p>未来館の姿勢を表すスローガン「科学がわかる 世界がかわる」を制定した。</p>
平成18年度	<p><b>平成18年10月</b> オフィシャルパートナー第一号が決定 公募により副館長就任</p> <p><b>平成19年3月</b> 1階「企画展示ゾーン」改修工事完了</p>	<p>企画展やイベントのスペースとして用いてきた「催事ゾーン」（約800m<sup>2</sup>）を拡張し、「企画展示ゾーン」（約1,520m<sup>2</sup>）を設置した。</p>
平成19年度	<p><b>平成19年4月</b> 民間委託の拡大による運営体制に移行</p>	